

# ガルモハル

JAPANESE SCHOOL OF MUMBAI  
Unit No.201/202,Hiranandani Knowledge Park,  
Technology Street,Near Dr.L.H.Hiranandani-  
Hospital,Powai,Mumbai-400076.India  
TEL 022-6694-0630 FAX022-6221-5107

20May/2026 NO2

合言葉は、「ムンバイ日本人楽幸！！」  
笑顔あふれる楽しい幸せなムンバイ日本人学校

校長 佐藤 義朗

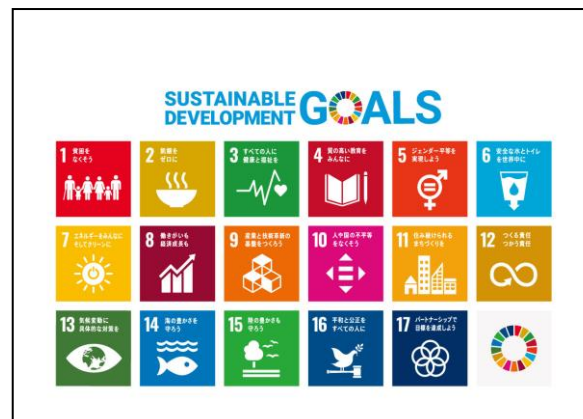
昨年度より、本校では持続可能な世界を創る担い手を育てるため、ムンバイの地にある日本人のコミュニティスクールとして、保護者をはじめ周囲の方々との協働で教育活動を展開してきました。それは、戦争、自然災害、温暖化等世界で起きている様々なことに対して、私たち人間が本気になって持続可能な世の中を目指し、その解決のために取り組んでいかなければならない時期にきているからです。子どもたちには世界で起こっている事象を他人ごとと捉えず、「自分たちに何ができるか？」を考えさせる教育活動を推進する必要があると思います。

教育には、二つの基本的な考え方（目標）があると考えます。

一つは、教育を受ける側のもって生まれた能力を最大限に引き出すこと。もう一つは、家族・社会・国民・地球市民として、その引き出された個性・能力を社会化し、世の中に貢献する人材を育成すること。

この二つのバランスをとりながら、インドで生活しているというメリットを生かし、知・徳・体の三つにわたって教育をおこなっていくことが大切です。そして二つ目の具体的な指針となるものが、SDGsの17の項目の目標であると考えます。

ムンバイ日本人学校では今年度も17の目標を教育活動とリンクさせ「持続可能な未来」にするために、教師も子どもたちも「SDGsの17の目標」を教育活動と関連させ価値づけを行いながら持続可能な社会の担い手を育てていきます。特にインドならではの貴重な体験、キャリア教育の充実、英語力の向上、体力向上、受験対策に重点を置いて取り組みます。人間が「笑顔で楽しい幸せ」と感じるのは、社会に貢献し、人のために役立ち、自己存在の意義を感じた時と考えます。このようにして、学校教育目標の「生きる力を身に付け、自ら学び



続けようとする、国際性豊かな児童・生徒の育成」の実現を図っていきます。

## 令和8年度 ムンバイ日本人学校 笑顔あふれる新しい一年の始まり

新しい出会いへの期待に満ち溢れた着任式、編入生歓迎会、始業式、入学式から、早いものでひと月半が経ちました。ムンバイ日本人学校では、令和5年度より「新しいこと」へ積極的にチャレンジし、日々の授業や行事の中で子ども達が大きく成長できるよう、取り組みを進めてきました。これまでの良いところはしっかりと残しながら、皆様のご意見を大切に、より充実した教育内容にしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



## 安全な学校づくりを目指して ～避難訓練・テロ対応訓練～

先月は避難訓練(火災想定)・テロ対応訓練を行いました。いずれの訓練も、子どもたちは真剣に取り組み、落ち着いて行動することができました。

本校では、2016年度に外務省の方針に基づき、在外教育施設における安全対策の強化を進めてまいりました。

インド国内では、過去にデリー爆破事件やハイデラバード爆破事件などが発生しており、どの地域においても、日頃から安全への備えを意識しておくことの重要性が指摘されています。

こうした状況を踏まえ、本校では校内施設の整備に加え、教職員やスタッフ、そして児童生徒一人ひとりが、緊急時に適切に行動できるよう備えることを重視し、安全に関する意識や行動を日頃から身につけていくことを大切にしています。

その一環の取り組みとして、在ムンバイ日本国総領事館の領事である西尾優佑様を講師としてお招きし、万が一の事態に備え、テロなどの危機に直面した際の行動を理解し、実践できるように避難訓練を実施しました。

訓練では、西尾様より、緊急時における三つの基本行動についてご指導いただきました。

まず①RUN(逃げる)

次に②HIDE(隠れる)(不安な状況でも慌てて動かず、落ち着いて身を隠すこと)

そして最後の手段として③FIGHT(抵抗する)

という考え方です。

今後も、一人ひとりが危機意識をしっかりと持ち、安全に行動できる力を身につけていけるよう、継続して取り組んでまいります。



## ～テロ対策等の危機意識が着実に高まっている児童生徒の感想紹介～

・本当に起きたら大変だと思った。・もう少しできることがあると思った。エアコンを消す、黒板の文字を消すなどすると登校していないことを伝えられる。・潜んでいる時間がとても長く感じた。・うまく見えないところに隠れられた。・緊張感をもって取り組めた。